

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 12	公益目的事業 19
主査名	秋山孝正 建設コンサルタント顧問 井ノ口弘昭 関西大学教授	
研究テーマ	都市交通政策評価への Well-being 指標の導入可能性に関する研究	
<p>Well-being は、身体的・精神的・社会的に満たされた状態を表す包括的な幸福概念である。都市交通政策においても、速達性などの他に、このような観点の評価を取り入れるべきであると考えられる。本研究プロジェクトでは、都市交通政策評価への Well-being 指標の導入可能性について、下記の5種類の観点で検討する。</p> <p>1) Well-being 指標に基づく都市交通政策の体系化と実証的検討</p> <p>本研究は、WHO の定義やセンの潜在能力理論を背景に、Well-being 概念を交通政策へ応用する。指標を「一過性の主観的気分」と「社会的基盤としての客観的幸福度」に整理し、理論的枠組みを構築する。具体的事例として、健康まちづくりやカーボンニュートラルに資する交通の在り方を検討する。幸福度ランキングの統計データを用い、移動の自由が個人の潜在能力をいかに拡張するかを実証し、持続可能な交通評価軸を提示する。</p> <p>2) 地域特性を考慮した Well-being 指標の検討</p> <p>公共交通が充実している都市部と自動車に依存している地方部では、Well-being 指標の特性が異なると考えられる。このため、近畿圏パーソントリップ調査結果、路線検索ソフト等の公共交通サービスデータ、地理情報データ等を用いた分析を行う。これらの分析結果より、地域特性を考慮した Well-being 指標値を検討する。</p> <p>3) 地方圏におけるデマンド型乗合交通の乗り換えサービスの効果計測</p> <p>自動車依存度が高い地方圏において、交通弱者の Well-being を実現するために、デマンド型乗合交通システム (DRT) が各地で導入されている。一方、運用の費用を抑制することも必要となっており、サービスの効率化が求められる。そこで、効率的な DRT の運用方策として、拠点における DRT の乗り換えを含むサービスを検討する。乗り換えを含むサービスにより、利用者数が増加した場合にも、運用車両を抑制できる効果を明らかにする。</p> <p>4) 地方都市圏における公共交通サービス水準の分析</p> <p>Well-being の向上を交通計画の目標とする動きが広がっているが、目標値となる指標は未だ確立されたものがない。その一つの要因は公共交通のサービス水準自体が客観的に数値化されていないからである。欧州では、こうしたデータ整備が進んでいることから、本研究では、日本の地方都市におけるサービス水準のデータ整備を行い、そうしたデータを用いて、人々が感じる Well-being との関係性をアンケート調査等を通じて検証する。</p> <p>5) AI を用いた交通行動の Well-being への影響メカニズム分析</p> <p>交通行動と個人の Well-being との関係は非線形かつ多因子的であり、従来の回帰分析のみでは十分に把握することが困難である。本サブテーマでは、機械学習や深層学習等の AI 手法を用い、通勤時間、混雑度、乗換回数、歩行環境などの交通条件が主観的幸福感やストレスに与える影響を推定する。モデルの説明性にも配慮し、どの交通要因が Well-being に強く影響するかを明らかにすることで、政策立案に資する知見を提供する。</p>		